

【bett in London 視察レポート】

2023年4月

学書 営業部 大野直昭

bett とは

- London で開催される世界最大級 EdTech(Education Technology)展示会
- 2023/03/29~31 出展業者 850 社、来場者 3 万人以上

主な内容

- 世界中からデジタル教育のコンテンツ・商材が一堂に集まりコンテンツ展示、来場者は学校関係者・学生・取次業者など。
- 出展業者: ヨーロッパ諸国、アジア、アラブ諸国など(日本からはアーテック)。
- VR、AR、AI学習、e-sports が数多く出展。プログラミングやVRは日本であまり定着していないが、世界各国では教育分野においても積極的に展開しているのが印象的。
- 教育における「AI」「ChatGPT」の活用については、まだ賛否が分かれる印象。「ChatGPT」活用も想定できたが、現時点ではコンテンツとしてはまだ見られない。



気になったコンテンツ

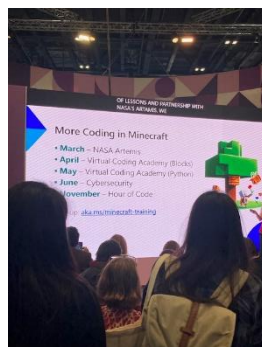
Mozaik Education 社(ハンガリー)
【mozaBook】
<https://www.mozaweb.com/en/mozabook>
WebBook の中に生物・地学・歴史などあらゆる分野の3D 画像や動画が格納されており、ホワイトボードや生徒各自のタブレットで視聴可能。一部、日本語翻訳されたものがある。



i-Scream 社(韓国)
【i-ScreamS】
<https://www.i-screammedia.com/en/business11.html>
グループ内に教科書会社も抱える背景もあり、紙のテキストと連動したコンテンツが充実。



紙テキストと連動したコンテンツ



Microsoft 社「Minecraft」プログラミング



シンプルなキットを使ったプログラミング

まとめ

世界各国の EdTech コンテンツを見て、**教育のデジタル化については《日本のガラパゴス化》がさらに進むであろう事が容易に想像できました。**それはひとえに、供給側(大人)の知識・認識の低さに起因するものと考えられます。

今回印象的だったのは、展示会場において日本ではほとんど見られない学生(子供)の参加が多いことでした。彼らは目を輝かせデジタルコンテンツに触れ、上手に活用していました。

「デジタルネイティブ」と呼ばれるこれからの学生にとってデジタル活用は何の抵抗もありません。

むしろ教育を提供する側である教師、公教育・民間教育、さらには教育委員会・文部科学省が積極的にデジタル化を取り入れないことには、なかなか進展しないであろう事が懸念されます。

民間教育を中心に、現場において導入・活用しやすいコンテンツを開発していくのが今後の課題と感じております。

BETT SHOW 2023 視察レポート (2023/03/29-30)

London の EXCEL LONDON にて 3日間開催。展示会の各所にて様々セミナーが順次に同時開催され（約 120 種類）、合間に関心ある出展ブースを訪問形式。2019 年に参席後から 3 年が経過しトレンドの変化を改めて確認出来る機会となった。世界各国の関連業社（850 社）が参席。来場者は約 35,000 名。（韓国の出展企業が増大した印象）

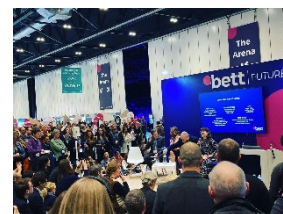
3 年前のセミナー要旨を今回の要旨を比較掲載する。

2019 年/BETT SHOW/主なセミナー論題

「効果的な STEM 教育」「授業にて如何に VR 機器を活用するか」
「コーディング教育の現状」「教育環境に AI を取り入れるために」など。

2023 年/BETT SHOW/主なセミナー論題

「デジタルを活用した教育の公平性」「対面学習からメタバース学習への可能性」
「子供のメンタルヘルスと WELL BEING サポートのためのデジタルイノベーション」
「AI 教育と Chat GTP のリスクとチャンス」など。

**<セミナー/パネルディスカッションに於ける主な例示>**

○2025 年迄にデジタルスキル不足は多様な組織の 90% に大きく影響が及ぶ→約 65 億ドルの損が予想される。

→各種製品の企画開発や販売促進が遅れることで、顧客満足度が低下しビジネス上の損失の可能性を非常に懸念。

○これを回避するためには持続的な回復力のある教育を構築するという 3 種類のアプローチを取ることが必要。

→システム、スキル構築（デジタルスキルへの投資）とプロセスを加速する方法を含む新興テクノロジーの活用。

→アクセシビリティの公平性とセキュリティがそれぞれの重要な要素であることも合わせて強調する必要あり。

○地球上の全ての学習者と教育者の生活を豊かに、この使命を達成のために潜在能力を最大限に発揮できるようにする。

→つまり世界を変えるテクノロジーを作成することです。（我々の使命として）

→デジタル化が加速する中、若者のメンタルヘルス危機は学校に影響を与え続けている。

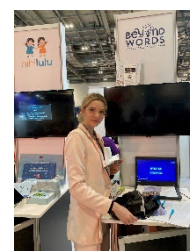
→若者がタイムリーで的を絞ったサポートを受けられるよう自分の感情的な健康と福祉のニーズを探求できるように。

○英国ではセキュリティも依然として最大の懸念事項。学校の約 70%がサイバー攻撃の対象になっていると報告あり。

→学校は現在、ファイアウォール保護、2 段階認証などのテクノロジーに投資しているが脆弱性が依然として存在。

→攻撃はますます巧妙化しているが、5G や 6G を使用すると、はるかにスムーズな体験が可能となってきている。

→遠隔地や農村地域で優れた応答の共有でき、サイバー攻撃へのとして強化プライベートネットワーク構築も可能。



○EdTech、Founders の教育リーダー、AI の専門家パネルが、Chat GPT と Generative AI が教育分野への影響を議論。

→Generative AI には革命を起こす可能性があります。リスクとチャンスだが、実際には人間が関与する必要がある。

→技術は素晴らしいが、それでも人間的な側面があります。私たちは皆人間であるため、先ずその共感が必要である。

→私達は、AI が現在持っていない事項の可能性があることも理解すべき。ポジティブ & 私たちが受け入れるべき。

→これにより人々の時間を安全に節約できるようになりつつある→懸念と危険性は国別のデジタルデバイドである。

→Chat GPT は生成する単語をまったく理解していない。現実の世界にどのように適用されるという概念は保持無し。

→知識ではなく情報であり現実の世界でどのように適用されるかを、各国各社のシステム開発の経緯を見守りたい。

→これから正しく学ぶべき最も重要なことは、人間の知性は全体として AI よりもはるかに賢いということである。

⇒私が激しく反対する理由は、私達が自分自身の人間の知性の複雑さをまだ理解していないと正直に思うからである。

⇒私たちの非常に洗練された知性により AI を賢く利用することは出来るでしょう。（知識とは何か、知識と情報とは）

